国・地域名

メキシコ

【更新】2025年7月

人口・経済発展状況等 〔参考：日本〕 ●人口：１億2,374万人 （2024年12月確定値、総務省統計局「人口推計」2025年5月20日公表） ●実質GDP成長率：0.8% （2024年度〈前年度比〉、内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算〈GDP統計〉」2025年） ●1人あたり GDP(実質):3万2,498ドル （2024年、IMF WEO2025年4月）	・ 人口	**1億3,227 万人**	2024年推定値（IMF WEO2025年4月）
	・ 実質ＧＤＰ成長率	**1.5 %**	2024年（IMF WEO2025年4月）
	・ 1人あたりのＧＤＰ（名目）	**1万4,007 ドル**	2024年推定値（IMF WEO2025年4月）
	・ 為替レート(1ペソ)	**9.32 円**	三菱UFJリサーチ＆コンサルティング_現地参考相場_2024年間平均
	・ 日本の直接投資額	**256 億円**	財務省「対外・対内直接投資フロー令和56年（2024年）」
	・ 進出日系企業数	**1,498 社**	外務省「海外進出日系企業拠点数調査」（令和5年10月1日現在）
	・ 在留邦人	**9,985 人**	外務省「海外在留邦人数調査統計」（令和6年10月1日現在）
	・ 訪日外客数	**15万1,835 人**	日本政府観光局（JNTO）「日本の観光統計データ」2024年訪日外客数の推移
	・ 日本食レストラン数	**7,120 店**	農林水産省「海外における日本食レストランの国・地域別概数」(令和5年10月13日)

日本からの農林水産物輸出状況 **（2022年二国間貿易実績、 農林水産省）**	**37位　17億円　うち農産物15億円(87.1%)　林産物0.3億円(1.6%)　水産物2億円(11.3%)** **輸出額の多い品目： アルコール飲料、 牛肉、 ぶり（活・生鮮・冷蔵・冷凍）、 緑茶、 ソース混合調味料**
味覚、嗜好上の特徴	・ メキシコシティなど経済的に発展した地域では、様々な国・地域の食品が入手可能なため人々の好みは多様。北部の州（ヌエボレオン、チワワ、コアウィラなど）では肉類を好む傾向が強い。南部の州（ユカタン、キンタナロー）では、豚肉だけでなく魚介類も入手しやすいため人々も好んで食べる。 ・ 味覚としては、塩味や甘味の強い濃い味や辛い味を好む。 ・ 最も消費されるアルコール飲料はビール（味、入手が容易、価格が手頃）。メキシコ・海外産のクラフトビールの消費が増加傾向。ワインや、テキーラ・メスカル等の蒸留酒も広く消費されている。 ・ メキシコで最も広く信仰されている宗教はカトリック、次いでプロテスタント。いずれも食事に関する大きな制約はない。
制度的制約	＜動物検疫＞ ・ メキシコ政府当局の認定を受けた、牛肉の輸出施設を管轄する地方自治体および動物検疫所において、輸出に必要な衛生証明書を発行している。メキシコへ直接輸出が認められる認定加工施設は、岩手県、群馬県、宮崎県、鹿児島県の既存施設7カ所に加え、2024年3月に岐阜、兵庫、大分、熊本の4カ所が加わり、計11カ所となった。 ・ 乳製品は日本とメキシコ間で衛生条件が定められていないため、輸出できない。 ・ 水産品の輸出は農林水産省の地方農政局が発行する衛生証明書を自由販売証明書に代替することができる。輸出に当たっての日本側の施設登録などは不要。 ＜植物防疫＞ ・ 緑茶（製茶）は植物検疫証明書なしで輸出可。CPTPPを活用した場合、関税無税。 ・ 2023年3月17日（現地時間16日）に日本産精米の輸入が解禁となった。燻蒸処理不要。玄米は対象外。輸出には植物防疫所発行の植物検疫証明書が必要。CPTPPを活用した場合の関税は、2025年4%、2026年2%、2027年以降は無税。 ・ 緑茶（製茶）およびコメ（精米）を除いた植物品目（野菜・果物のほとんど）は、検疫条件が設定されておらずメキシコへの輸出不可。
商流・物流・商習慣	・ 日本の食品は日本から直接輸出される場合と、在米商社などに向けて輸出された後、在米商社からメキシコの輸入者に対して再輸出される場合がある。 ・ 牛肉は、冷蔵の場合は日本から空輸され、冷凍の場合は主に米国経由。 ・ 日本から船便で輸出する場合、多くは横浜港から出港し、メキシコ太平洋側のマンサニージョ港またはラサロ・カルデナス港で荷揚げされる。
Eコマースの概要	・ インターネットで最も販売された商品はファッション、調理済み食品、美容・個人ケア、電子機器、玩具。利用される主なオンラインマーケットプレイスは、Amazon、Mercado Libre、Temu。 ・ 2024年のメキシコにおけるオンライン小売販売市場価値は7,897億ペソ。
外食・小売り等の状況	・ 2024年の卸売業の名目GDPは前年比1.29%増の2兆4,732億ペソ。小売業の名目GDPは前年比2.68増の2兆5,390億ペソ。 ・ 宿泊・飲食サービス業の名目GDPは前年比1.76%減の5,692億ペソ。　（いずれも2018年通貨ベース、国立地理統計情報院（INEGI)2025年7月時点）
日本食普及状況等	・ メキシコにおいて日本食人気は高まっている。あるレストラン予約プラットフォームでは、最も人気の高い料理の一つが日本料理とされている。また、主要なフードデリバリーサービスでの*Sushi*の 注文が2024年に1,000万件を超えたとの報道あり。 ・ ステーキハウスなど、メニューに和牛を掲載するレストランが大幅な増加傾向を示している。価格の安さから米国・豪州産の*Wagyu* や交雑種が選択される場合がある。主要スーパーやオンラインストアでの販売も増え、一般消費者からもアクセスしやすくなっている。和牛を利用した料理は基本的には高級品だが、和牛をハンバーガーに利用する傾向もある。ただし、メニューにWagyuと記載があっても交雑種の可能性もある。 ・ 2025年末まで、メキシコの牛肉輸入関税は20%から0%に削減措置。 ・ ロールすし、ラーメンがメキシコで最も知られ消費されている日本料理。現地資本のロールすしチェーン店が増加。一方で、メキシコ人の味覚を意識しつつ、本場日本の味を提供しようとするレストランも増加傾向。 ・ 日本酒は、基本的に日本料理店で飲まれ、高級な飲み物の位置づけ。 ・ ラーメンの取り扱い店舗と、ラーメン専門店が急増中。中間所得層向け日本食店で、ラーメンの扱いがない店舗は、ほぼない。米国と同様、ラーメンが完成されたスープ麺料理として認識されている。

Copyright © 2025　JETRO. All rights reserved. 禁無断転載